キャラクター名
静海 夜中（しずみ よなか）

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ウロボロス	ワークス	カウンターD	カヴァー	大学生
オプショナル		年齢	19	性別	女
覚醒	感染	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	2		0			2
精神	4		0			4
社会	0	1	0			1

HP	28
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	5		交渉	1	
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

エフェクトパッチ	
思い出の一品	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
傍らに立つ影	P	N		
牧間穂希	P 親近感	N 不信感		
ポストレネゲイド文学の教授	P 尊敬	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:ｳﾛﾎﾞﾛｽ	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	なし	なし			
効果 :ｸﾘﾃｨｶﾙ値を－レベル（下限値7）する□□エフェクトﾊﾟｯﾁ□0□0□0□0□5□0□0□0□マイナーアクション使用。自分のシンドロームのイージーエフェクト1つを、そのシーンの間1レベルで取得する。								
原初の赤：氷の塔	2	5	ﾒｼﾞｬｰ	視界	範囲(選択)			
効果： 攻撃力+LV×3の射撃攻撃を行う、同エンゲージにいるキャラクターを対象にできない								
原初の黒：マスヴィジョン	3	6	ﾒｼﾞｬｰ	なし	なし			
効果： 攻撃力+LV*5、1シナリオ3回、100%								
傍らに立つ影：自動触手	1	3	ｵｰﾄ	至近	自身			
効果： ガードを行う際に使用可、攻撃してきたキャラクターにLV×3点のHPダメージを与える、1ラウンド1回								
喰らわれし贄	2	1	ｵｰﾄ	至近	自身			
効果 :オーヴァードに1点でもHPダメージを与えた際に使用、シーン中ウロボロスのエフェクトを組み合わせた攻撃の攻撃力+LV×3、1シーン1回								
背徳の理	2	3	ｵｰﾄ	至近	自身			
効果： オーヴァードに1点でもHPダメージを与えた際に使用可、シーン中ウロボロスのエフェクトを組み合わせた判定ダイス+LV×2d								
破壊の渦動	1	5	ｵｰﾄ	至近	自身			
効果： オーヴァードに1点でもHPダメージを与えた際に使用可、シーン中装甲値無視、1シナリオLV回								
無形の影	1	4	ﾒｼﾞｬｰ	なし	なし			
効果： あらゆる判定と組み合わせられる、このエフェクトを組み合わせた判定は精神で判定を行える、1ラウンド1回								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

平凡な大学2年生。内気というより控えめな性格で、何事も小市民的にやり過ごせればいいなと思っている。海や山に行くよりは、読書が好きなインドア派。大学では文学部に所属し、ゼミに入ったらポストレネゲイド文学をやりたいと思っている。
身長155cmと少し小柄で、肩までの真っ黒な髪をウルフカットにしている。基本裸眼だが広い教室だとたまに眼鏡をかけたりする。おしゃれについては平均的だと思っている。
ウロボロスのピュアブリードであり、平均的なプライマリよりは強い能力を行使できる。自分の影を実体化することができ、物を取ったり、一緒に料理をしたりなど、日常生活に役立てており、その便利さから少ない学友にも能力を重宝されている。
本人は戦闘などの荒事は得意ではないが、UGNの支部長である叔父と仲が良く、UGN樺ヶ崎市支部にイリーガルとして所属し、レネゲイド関係の荒事に駆り出されることは少なくない。